【樹木の部屋】

バラ（バラ科バラ属　Rosa）

和名；バラ(薔薇)　別名；ソウビ、ショウビ　英名；Rose

バラ目 低木もしくは蔓木　原産地；ヨーロッパ、北アメリカ、アジア

花言葉；愛情　花の色；赤、白、黄、オレンジ、紫、桃、青、緑、複色

← 写真－１ バラ(黄)
撮影日：2016 年 6 月 1 日
撮影場所：モンサンミッシェル
（フランス）にて
撮影者：M　さん

↓ 写真－２ バラ(赤)
撮影日：2004 年 5 月 23 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真－３ 鉢植えのミニバラ
撮影日：2004 年 5 月 13 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真－４　ミニバラ(桃)
撮影日：2015 年 5 月 12 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

→ 写真－５　ミニバラ(白)
撮影日：2015 年 5 月 11 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

バラ(薔薇)は、バラ科バラ属の総称です。そのうち特に園芸種(園芸バラ、栽培バラ)の総称だそうで、花が鑑賞用や食用に利用されています。また、ワイルドローズ、オールドローズ、モダンローズ、イングリッシュローズの系統があります。

バラ属の成形は、低木(灌木)または木本性の蔓植物で、葉や茎に棘を持つものが多いそうです。葉は 1 回奇数羽状複葉、花は 5 枚の花びらと多数の雄蘂を持ち、園芸種では大部分が八重咲きだそうです。北半球の温帯域に広く自生し、主産地はチベット周辺、中国雲南省からミャンマーにかけてですが、ここから中近東、ヨーロッパへ、また極東から北アメリカへと伝播したそうです。南半球にはバラは自生しないそうです。

ヨーロッパではラテン語の rosa に由来する名で呼ぶ言語が多く、また同じ語が別義として「薔薇色」として「ピンク色」の意味をもつことが多いそうです。「ばら」の名は和語で、「いばら」の転訛したもので、通常、漢語「薔薇」の字が使用されています。

6 月の誕生花で、季語は夏ですが、冬の季語としても「冬薔薇」「ふゆそうび」が使用されています。花言葉は「愛情」ですが、色、状態、本数、組合せによって変化します。

バラが人類の歴史に登場するのは古代バビロニアの『ギルガメシュ叙事詩』で、紀元前 1500 年頃の古代オリエントの地では約 4 種の野生バラがあり、ここから交雑によっていくつかの品種が誕生したといわれています。

花を鑑賞するため栽培されることが圧倒的に多いのですが、ダマスクローズ(Damask rose)の花弁から精油を抽出した「ローズオイル(Rose oil)」は、香水の原料やアロマセラピーに用いられています。

日本はバラの自生地として世界的に知られているそうで、品種改良に使用された原種のうち3種類(ノイバラ、テリハノイバラ、ハマナス)は日本原産だそうです。バラが日本でも現在のように「花の女王」として愛好されるようになるのは明治以降で、ノイバラの果実は利尿作用があるなど薬用として利用されたそうです。

＜ちょっと一言＞

＊ワイルドローズ：品種改良されていない野生のバラ。
＊オールドローズ：1967年のラ・フランス(ハイブリッド・ティー種)より前の品種。
＊モダンローズ：ラ・フランスより後の品種。
＊イングリッシュローズ：オールドローズとモダンローズの交配で誕生した品種。
＊日本原産種：ノイバラ、テリハノイバラ、ハマナス